

2024年2月11日 No. 3706

先週の講壇から

〃 川の流れるように 〃

ヨハネによる福音書 第7章 37節～39節

聖句「わたしを信じる者は、聖書に書いてある通り、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」(7:38)

1. 《不死鳥の遺作》 1987年、美空ひばりは百日にも及ぶ闘病を経て、歌手生活を再開しました。翌年には、復帰アルバム「不死鳥」を発表、東京ドームでのコンサートも成功させました。秋元康を起用した「不死鳥パート2」から「川の流れるように」をシングルカットすることは、ひばりの強い願いだったと言います。逝去の半年前の出来事です。こうして同曲が彼女の遺作となったのです。
2. 《紆余曲折する》 榎本栄次牧師に『川は曲がりながらも』という著書がありますが、私自身も、飛行機から千歳川を見た時に湖沼か三日月湖かと錯覚した程でした。私たちの人生も紆余曲折があって、ここに今いるのです。教会の歩みも紆余曲折があって良いのです。創立から百年以上も過ぎても、迷ったり悩んだりしている。けれども、それこそが、この世に立たされている教会の使命なのです。時代や社会、暮らし向きや価値観、人間の生き方や家族の在り方も大きく変わって行く中で、共に悩むことが本分なのです。試行錯誤、紆余曲折は恥ではありません。むしろ、変化を嫌って硬直的になったり、失敗を恐れて何も試そうとしない態度こそ不信仰です。どんなに曲がっても、必ず川は海に流れ込むのです。
3. 《海に流れ出る》 イエスさまは、教会を「生きた水の流れ」と仰っています。キリストという水源から湧き出した水の流れは、2千年を経て今も滔々と流れているのです。吹き溜まり澱んでしまったら「川」ではなく「沼」となり、清流に暮らす魚はいなくなり、ボウフラが湧くようになります。流れなくなったら、折角の清い水も腐ってしまうのです。教会の価値は、人数の多寡や建物ではありません。清流を保って、確実に海に向かっていく、生きて流れているかに掛かっています。川はどんなに曲がりくねっていても良いのです。河口まで行けば、川そのものが大きく広がって真直ぐな流れに成ります。私たちの出て来た所はイエスの十字架、流れ出て行く先は神さまの愛。それさえ忘れなければ大丈夫なのです。「渴いている人は誰でも、私の所に来て飲みなさい」と、主は仰いました。

朝日研一朗牧師